

昭和47年度の海外関係業務をふりかえって

海外地質調査協力室

地質調査所における海外関係業務としては 海外地質調査協力室で行なっている業務 資料室および標本室が行なっている 資料交換ならびに各研究部課における研究成果の交換などがあり ここでは当室で行なっている業務をふりかえってみたい。

発展途上国に対する技術協力の重要性は 最近とみに国の内外から強調されている情勢に対応し 当室としては 地質調査所のこれら業務の窓口として その活動範囲の拡大ならびに充実につとめてきた。 当室は各研究部課の協力のもとに 発展途上国に対する専門家派遣 国際機関との協力 国内の関係機関との協力ならびに集団研修などを行なっている。 毎年開かれる2つの集団研修コースは第6回を終了し この間に受け入れた研修員は120名以上に達し それらの国々は アジア 中近東 アフリカおよび南米などの26カ国におよんでいる。 各国に派遣されている専門家の実績ならびに受け入れた協同研究員および研修員により より広く各国における当所に対する認識を高める結果となり 先進国の研究者との協同研究の実施 関係要人の来所 専門家の派遣要請 研修参加希望者の増加および国際会議への積極的な参加要請がますます増大の傾向を示している。

研究協力の国際的要請に応じて 昭和48年度に国際産業技術研究センター (Institute for Transfer of Industrial Technology, I.T.I.T.) が工業技術院に設置され 当所で従来行なっていた海外活動がより一層推進拡大されるようになった。 当室では4半期毎に海外地質期報として業務の内容 専門家からの報告 海外ニュースなどを取まとめ関係方面に参考資料として配布している。

1. 在外研究・協同研究

本年度は科学技術庁の長期在外研究員として物理探査部小川克郎技官と地球化学課白波瀬輝夫技官の2名 中期在外研究員として 物理探査部中条純輔課長 パートギャランティ研究員として地質部寺岡易司技官が選ばれほかに招へい研究員として鉱床部佐々木昭課長および学術調査隊に参加の地球化学課倉沢一技官が海外に出張した。 小川技官はカナダ地質調査所において 航空機による物理探査におけるデータ処理システムを研究のため昭和47年9月1日から1カ年の予定で出張した。

白波瀬技官はオーストラリア国立大学において 火成岩の同位体地球化学を研究のため 昭和47年10月21日から1カ年の予定で出張した。

中条課長は米国の海洋調査船オーシャノーグラフア号による南西—北東太平洋の海洋地質調査ならびに調査船上におけるデータ処理を研究のため 昭和47年5月15日から9月26日までの間太平洋上ならびに米国に出張した。

寺岡技官は西ドイツ連邦地質調査所において 中・新生界の層序および堆積学を研究のため 昭和48年1月26日から1カ年の予定で出張した。

佐々木課長はカナダ カルガリー大学の招へいにより安定同位体による地質現象を研究のため 昭和47年7月7日から3カ月間出張した。

倉沢技官は東京大学で計画した第2回目のインドデカン高原の地学総合調査に 前回に引続いて研究協力者として 昭和47年12月18日から昭和48年1月31日までの間出張した。

2. 海外研修員などの受け入れ

集団研修 は沿海探査および地下水開発の2つのコースでいずれも今年度で第6回を終了した。

沿海探査集団研修コースは8カ国から9名の研修員を受け入れ 5月15日～11月16日までの間開催され その間に北海道で空中磁気探査 仙台沖で海上物理探査ならびに深海ドレッジなどの実習を行なった。

地下水開発集団研修コースは10カ国から11名を受け入れ 8月1日～12月20日までの間開催され その間に常磐地区で地下水開発のための一貫した実習を行なった。

個別研修 としては地熱開発調査を研修のためチリから1名を1カ月間物理探査部で 地下水開発調査を研修のため エチオピアから1名を1カ月間水資源課ならびに試錐課で受け入れた。

わが国で実施されている当所の業務と関連のある集団研修コースとしては 建築研究所の地震工学センターおよび九州大学における地熱開発コースがあり 当所からそれぞれのコースに講師が派遣されている。

先進国からの協同研究者 としてはオーストラリア ニューゼーランドおよびカナダからそれぞれ1名を

沿海探査集団研修 (47. 5.15~47.11.16)

国籍	氏名	所属機関
ビルマ	TOE TOE MYINT	鉱物開発公社
ビルマ	HAN TIN	ビルマ石油公社
台湾	HNAN JEN JUANG	中国石油公司
エクアドル	R. CABEZAR PEDRO	総務局
インドネシア	SUHARNO HARTOSUKORAHARDJO	地質調査所
クメール	SIMON OUM	工業・鉱物資源・水産省
マライシア	LEONG KHEE MENG	地質調査所
フィリピン	MARCELINO APELO	鉱山局
タイ	METHA AMORNIRINUKROH	鉱物資源局

地下水開発集団研修 (47. 8.21~47.12.20)

国籍	氏名	所属機関
アフガニスタン	ABDUL RAHMAN BADEL	水理地質庁
ブラジル	DANILO LEAL LUSTOSA	水理局
エジプト	AHMED WERWCIR ALI MAHMOUD	砂漠開発庁
エチオピア	BIRARA TEWODRAS	水資源委員会
インド	RAMESH MORESHWAR AGASHE	中央地下水局
インドネシア	SOENOMO	中部ジャワ水資源開発局
インドネシア	SOEHERMAN	東部ジャワ水資源開発局
イラン	GOLAMREZA MALEX	水資源管理局
リビア	SAAD FARAG ELRABATI	水資源開発利用局
ネパール	NAND KISHORE AGRAWAL	がんがい水資源局
スリランカ	RATRASABAPATHY SELVARTNAM	地質水理局

個別研修 (47. 4. 1~48. 3.31)

国籍	氏名	研修	所属機関	期間	経費
チリ	MARINOVIC SIMONOVIC NICOLAS	地熱開発	地熱利用委員会	47.10. 1~10.31	国連
エチオピア	EPHREME GUADE	地下水開発	水資源庁	48. 1.10~2. 6	OTCA

(他にごく短期の研修員数名)

受け入れた。

オーストラリア科学・工業研究庁の Bass Becking 地質研究所に所属の I. B. LAMBERT 博士は 科学技術庁が招へいた研究者で 昭和47年7月10日~昭和48年2月9日までの間鉱床部において黒鉱床床について協同研究を行なった。

カナダ Windsor 大学地質学教室主任教授の P. SONNENFELD 博士は 昭和47年7月10日~8月26日までの間地球化学課 化学課および鉱床部の研究者とドロマイトについて協同研究を行なった。

ニュージーランド Otago 大学地質学教室の C. A. LANDIS 博士は 昭和47年9月7日~12月20日までの間 地質部において変成岩について協同研究を行なった。

3. 専門家派遣

派遣されている専門家は 国連の要請またはコロンボ

47年度に派遣された専門家 (47. 4. 1~48. 3.31)

氏名	所属	派遣先機関	期間	経費
五十嵐俊雄	鉱床部	イエーメン アラブ共和国 (経済開発計画調査団)	47. 4. 7~47. 4. 26	OTCA
河野 迪也	海外室	パキスタン原子力委員会 (ウラン資源開発計画調査団)	47. 5.13~47. 6.21	OTCA
沢村孝之助	地質部	タイ・エコフェ (CCOP 技術顧問)	48. 3. 1~49. 8.31	OTCA
村下 敏夫	応用地質部	南ベトナムサイゴン市水源開発調査	48. 3.15~48. 3.26	OTCA

過年度に派遣され47年度に帰国した専門家

氏名	所属	派遣先機関	期間	経費
大沢 穠	地質部	サウジアラビア鉱物資源局	44.11. 8~47. 5. 7	サウジアラビア政府
平山 健	海外室	トルコ地質鉱物開発研究所	45. 3.15~47. 7.15	国連
奥海 靖	技術部	サウジアラビア鉱物資源局	46. 3.16~47. 9.15	サウジアラビア政府
加藤 完試	錐課	エチオピア水資源委員会	46. 1.13~48. 1.12	OTCA
藤井 敬三	燃料部	サウジアラビア鉱物資源局	47. 2.27~48. 2.26	サウジアラビア政府
佐藤 良昭	燃料部	タイ・エコフェ CCCP	45. 8. 1~48. 3.31	OTCA 国連

過年度に派遣され47年度も引続いて派遣されている専門家

氏名	所属	派遣先機関	期間	経費
高橋 清	技術部	サウジアラビア応用地質学センター	46. 3.20~48. 7.31	ユネスコ
加藤 甲壬	化学課	サウジアラビア鉱物資源局	46. 3.16~49. 3.15	サウジアラビア政府
桑形 久夫	地形課	"	46. 3.16~49. 3.15	"
藤井 紀之	鉱床部	"	46. 6.13~49. 6.12	"
番場 猛夫	北海道支所	トルコ地質鉱物開発研究所	46. 5.21~48. 5.20	OTCA
河田 清雄	地質部	"	46. 5.21~48. 5.20	OTCA
太田 良平	地質部	"	46. 8. 9~48. 8. 8	OTCA

計画等により 日本政府が海外技術協力事業団 (OTCA) を通じて実施している技術協力計画により 発展途上の地下資源開発のための調査に従事している。

国連の要請による専門家として前年度から引続いて派遣されている 地球化学課高橋清技官は ユネスコがサウジアラビアのジッダに設立した応用地質学センターに2カ年の任期で赴任していたが 今年度さらに任期延長の要請に応じて地球化学的調査研究の指導に当たっている。

日本政府の行なう技術協力による専門家が1年以上の長期にわたり派遣されている機関は トルコ地質鉱物開発研究所 (MTA) サウジアラビア鉱物資源局 (DG

海外との交流 (43. 4~48. 3)

年 度	国 名 対 象 別	韓	台	フク	南	タ	エ	ビ	ア	パ	イ	ス	サ	イ	イ	エ	中	エ	カ	ア	ニ	オ	フ	西	ス	コ	エ	ベ	チ	合 計
		国	湾	イ	ベ	カ	ラ	ン	ド	ネ	キ	ス	ラ	ウ	ト	エ	央	リ	メ	カ	メ	ュー	ス	ラ	ロ	ク	アル	ン	ル	
43年	技術協力		1					1						1						1							4	1	15	
	在外研究 受入研修員		6																	2									2	
44年	技術協力			1						1				7	1	1	1										1		19	
	在外研究 受入研修員		3			1								1	1	1													1	
45年	技術協力		1			1				1			4			3								1	1	1			10	
	在外研究 受入研修員		7	2	1	1	1	1	2	2	1	1	2	1	1	1	1	1		(1)							1	1	1	3
46年	技術協力				1	1	2						2	3		1							1						11	
	在外研究 受入研修員		6	2	2	3	1	1	1	2	2	1	1	2	1	2	2			(3)					(2)	1	2	1	1	1
47年	技術協力				1	1			1				4		1														8	
	在外研究 受入研修員		1	1	1	1	1	2	3	1	1	1	1								1	2	1	1					6	
			1	1	1	1	1	2	3	1	1	1	1		2	1	1				(1)	(1)	(1)			1		1	1	22

() は協同研究

MR) およびエカフエ沿海鉱物資源共同探査調整委員会 (CCOP) 事務局の3機関である。

トルコのアンカラにある地質鉱物開発研究所には 昭和41年7月にはじめて当所から炭田地質の専門家が派遣され その後引続いて金属鉱床探査専門家が派遣され 現在までに当所から6名 業界から2名の専門家が派遣された。今年度に引続いて派遣されている専門家は当所から3名 業界から1名の計4名で トルコのおもに銅鉱床開発のための調査に従事している。

サウジアラビア政府の経費によりジッダにある鉱物資源局に派遣されている専門家は 昭和38年9月に第1次調査団が派遣されて以来引き続き今年度派遣中の第6次調査団までの間 当所から34名 業界から1名の計35名に達し 同国の鉱物資源開発のための調査に従事している。調査団の規模は第3次および第4次の7名を最高とし 第6次は4名で編成されている。

バンコクにある エカフエのアジア沿海鉱物資源共同探査調整委員会事務局に技術顧問として 創設当初の昭和42年から現在まで引続いて当所から4名の専門家が派遣され 域内国の沿海鉱物資源探査の発展に寄与している。

短期の専門家としてはイエーメン パキスタンおよび南ベトナムに計3名が派遣された。

イエーメンアラブ共和国の農業および鉱物資源調査のために派遣された経済開発計画調査団の団員として 鉱床部五十嵐俊雄技官は 昭和47年4月7日~4月26日の間同国で鉱床調査ならびに地質資料の収集を行なった。

パキスタンのウラン資源調査のため派遣された開発計画調査団の団長として 海外室河野迪也技官は 昭和47年5月13日~6月21日の間マクラン海岸地域の自動車放射能探査を実施した。

南ベトナムサイゴン首都圏の水道施設整備のため派遣された整備計画調査団の団員として 水資源課村下敏夫技官は 昭和48年3月15日~3月26日の間現地においてサク井の監理指導にあたった。

4. 国際会議

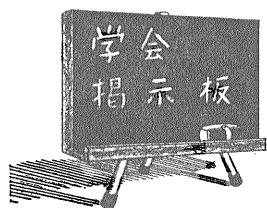
国際原子力機構 (IAEA) ウラン探査方法に関するパネル は 昭和47年4月10日~4月14日までの間 オーストリアのウィーンで開催された。会議には動力炉・核燃料開発事業団の依頼により 鉱床部崎崎吉彦課長が同事業団の岡田氏とともに出席した。

第24回万国地質学会議 (IGC) は 昭和47年8月22日～8月29日までの間 カナダのモントリオールで開催された。会議には 小林所長 カナダのカルガリー大学留学中の 鮎床部佐々木課長および科学技術庁国際研究集会派遣研究員として 地球化学課柴田技官が参加し論文発表などを行なった。

天然資源の開発利用に関する日米会議 (UJNR) 海底地質専門部会 (MGP) は 昭和47年9月25日～10月7日までの間東京での会議および巡検旅行が行なわれた。米国側参加者は 部会長の米国地質調査所海洋地質部長 P. D. SNAVELY 博士および F. H. WANG 博士で 日本側は部

会長の岡野企画室長をはじめとして当所関係部課 公害資源研究所 海上保安庁水路部および顧問として石油公団 石油資源開発株式会社などから専門家が参加した。

アジア沿海鮎物資源共同探査調整委員会 (CCOP) 第9回会合は 11月20日～12月2日までの間 インドネシアのバンドンで開催された。会議には日本代表の佐野海外室長ほか3名と 特別顧問の早川東海大学教授が日本側から UNDP のコンサルタントとして小田東北大学教授 (国際法) および事務局員として派遣中の佐藤良昭技官が参加した。



・日本分光学会

1. 昭和48年5月24日 (木)～25日(金)
2. 昭和48年度日本分光学会総会春季講演会 装置都会シンポジウム
3. 国立教育会館 (東京都千代田区霞ヶ関)
4. 日本分光学会

5. 東京都新宿区百人町3-22-17

東京教育大学光学研究所 社団法人 日本分光学会
☎ (03) 362-7881

・International Symposium on Volcanism and Associated Metallogenesis

1. 昭和48年9月3日～8日
2. 火山活動および鮎床生成に関する国際シンポジウム
3. ブカレスト ルーマニア
4. ルーマニア鮎山・石油・地質省 文部省
5. Prof. D. Radulescu, Fac. Geologie-Geografie, Bul. Balcescu 1, Bucuresti, ROMANIA

・International Symposium on Underground Waste Management and Artificial Recharge

1. 昭和48年9月26日～30日
2. 地下廃棄物処理および人工地下水に関する国際シンポジウム
3. ニューオーレアン 米国
4. アメリカ石油地質学会 米国地質調査所 国際水理地質学会
5. American Association of Petroleum Geologists, P. O. Box 979. Tulsa, Oklahoma 74101, U.S.A.

・昭和48年に開催される エカフエ主催の地質・鮎物資源開発

に関する会議

1. 18-25 June
2. Working Group on Stratigraphic Correlation between Sedimentary Basins of the ECAFE Region, inaugural session (Joint ECAFE, UNESCO, COS/IUGS)
3. Bangkok (Thailand)
1. 29 Aug.—6 Sept.
2. Committee for Co-ordination of Joint Prospecting for Mineral Resources in South Pacific Offshore Areas (CCOP/SOPAC), second session
3. Nukalofa (Tonga)
1. 10-22 Sept.
2. Committee for Co-ordination of Joint Prospecting for Mineral Resources in Asian Offshore Areas (CCOP/EA), tenth session
3. Singapore
1. 17 Sept.—1 Oct.
2. Seminar on Remote Sensing Methods and Techniques
3. Bangkok (Thailand)
1. 1-3 Oct.
2. Second Consultative Group Meeting on the ECAFE Tectonic Map (Joint ECAFE, UNESCO, CGMW)
3. Kuala Lumpur (Malaysia)
1. 4-15 Oct.
2. Regional Conference on Geology and Mineral Resources Development, ninth session
3. Kuala Lumpur (Malaysia)

[注] 1. 開催年月 2. 会合名 3. 会場 4. 主催者
5. 連絡先 (掲載順位は原稿到着順)